Vision

ビジョン：

CARE は、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、寛容で公正な世界を目指します。

Mission

ミッション：

CARE は、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組みます。

Focus

フォーカス：

CARE は、女性と女子を活動の中心にすえます。
貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があるからです。

Our Work

ケア・インターナショナル ジャパンの活動：

ケア・インターナショナル ジャパンは、世界 90 ヶ国以上で人道支援活動を行う国際 NGO ケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性と女子」の自立支援を通して、貧困のない社会を目指しています。特に「女子教育」「女性の経済的エンパワメント」「母子保健」の分野に注力し、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

長期ビジョン 2020：

私たちの目指す社会

1．「女性と女子」の自立支援を通じて貧困のない社会を目指します。特に、女子教育、生活向上、母子保健の3領域に注力します。

私たちらしい支援

2．最も弱い立場におかれた人々や支援の届きにくい地域の人々に、現地協力者との連携を大事にしながら、確実に支援を届けていきます。

3．緊急支援の能力を高め、国内外の自然災害に対し、より迅速かつ効果的に対応します。特に、東日本大震災での学びを今後に活かしていきます。

4．支援対象国の人々と日本の支援者をつなぐ役割を果たすことで、共に社会課題の解決に取り組む世界の実現に貢献します。

私たちの目指す組織と人財

5．組織や事業の透明性を高め、あらゆる説明責任を果たすことで、幅広く共感を得て支持される団体になります。

6．多様な人財と新しい価値観を尊重し、職員の成長と連帯を高めることで、長期ビジョン 2020 達成への一人ひとりの貢献度を高めます。

ロゴについて：
互いにまっすぐ伸びていく手が形作る輪。
グローバルな視点で地球規模の問題に力を合わせて立ち向かう、CAREの活動の本質をイメージするものです。それは、一体であるだけでなく、多様性を認めるものでもあります。様々な環境に生きる世界中の人々が、共通の目標のもとに一つになったときに生み出される大きなチカラ。CAREのロゴにはこのような意味が込められています。

公益財団法人　ケア・インターナショナル ジャパン
〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1　目白カルチャービル5階　TEL：03-5950-1335　FAX：03-5950-1375
Email：info@careintjp.org　http://www.careintjp.org

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを堅く禁じます。
この年次報告書のデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの大橋久美様のご協力により、制作されています。
本報告書は、株式会社PAPのご協力により、低価格でのカラー印刷が実現しました。
（2019年10月発行）

公益財団法人
ケア・インターナショナル ジャパン

2019年度（2018年7月～2019年6月）
年　次　報　告　書

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に

支援者の皆様へ

ご挨拶　理事長 目賀田周一郎

昨今、国際情勢は大きく変動しております。その原因の多くは、独裁主義やポピュリズムに基づく自国ファースト主義や民族的、宗教的非寛容に起因するものですが、更にその背景にはグローバル化による貧富の格差の拡大があります。また、地域的紛争や地球温暖化を原因とする災害も頻発しております。このような状況であればこそ、民主主義や人権、法の支配といった基本的な価値を重視し、国家間の協力や協調が必要となりますが、同時に民間・市民社会のレベルでも、国境を越えた連帯や協力がますます重要となっているのではないでしょうか。

国際的NGOネットワーク組織であるケア・インターナショナルは、貧困をなくし、希望に満ちた寛容で公正な社会を目指すとの共通のビジョンのもとに、世界の貧困問題や人道的危機に取り組んでおります。災害や武力紛争の被害者の多くは女性や子どもたちであり、貧困の重要な原因の1つが女性に対する社会的不公正にあるとの認識から、女性や女子の社会的地位や能力の向上を通じた貧国対策を特に重視します。当財団は、このような理念や目的、重点事項を共有する世界14か国で構成されるケア・インターナショナルの一員として、相互に協力してその共通の使命と目的の実現に取り組んでおります。

私どもの活動分野は、また、国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標2030（SDGs）」の重点目標に一致するとともに、SDGsが提唱している政府、企業、市民社会の間のパートナーシップを具体化する機会を提供するものでもあります。

2019年度には2つの事業が終了し、今後新たな協力プロジェクトを立ち上げていくことになりますが、国内においては、一層の活動基盤の強化と啓発普及事業の充実、支援者の方々へのフィードバックに努めてまいりたいと思います。この機会に、これまでに賜りました様々なご支援に厚くお礼申し上げますとともに、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。そして、志を同じくする新たな支援団体、支援企業、支援者の方々がCAREを中心とする国際社会の連帯の輪に参加されることを願ってやみません。

年度総括　事務局長 池田卓生

2019年度は、組織としての重要戦略の実施を優先的に行い、事業計画に基づき各施策を順調に進めることができました。個人支援者の拡大や、企業からの支援の広がりも見え始め、財政的にも複数年にわたる見通しを立てることのできる一年となりました。

国際協力事業については、4件の開発支援事業をタイ、ガーナおよび東ティモールで継続してきましたが、そのうちの2件、ガーナでの「乳幼児栄養改善事業」と東ティモールの「農村地域における生計向上事業」は一定の成果を上げ、持続性を確保しつつ、事業を完了いたしました。また、ミャンマー難民やインドネシア・スラウェシ島地震被災者に対しての緊急支援事業も2件実施し、国内の支援者の皆さまから多くのご賛同、ご協力を賜りました。

啓発普及事業については、歩く国際協力「Walk in Her Shoes」を年一回のキャンペーンとして、より大きな規模で実施し、個人やガールスカウトの皆さまに加えて、本年は、企業の社員の皆さまにも個人やグループで多数ご参加をいただきました。また、「緊急支援基金」として、将来の国内外の災害に備えるための寄付を集めるクラウドファンディングを行い、目標額以上のご支援をいただきました。

さらに、パナソニック株式会社様の助成金により組織基盤強化も実施し、団体の方向性を決定するための有り難い機会をいただきました。今後、団体内でさらに議論を深め、中期目標や新規海外事業策定、ジェンダーの専門性強化などに取り組んで参ります。

今後の展望としては、2点の重要分野が挙げられます。1つ目は、CAREの団体活動の広報をさらに強化し、特に個人支援者からのご理解を広げていくことです。2つ目は、CAREの使命である貧困削減と女性の自立支援、つまりSDGsでいえばゴール1（貧困をなくそう）とゴール5（ジェンダー平等を実現しよう）の達成のため、CAREらしい支援事業の実施を拡大していくことです。

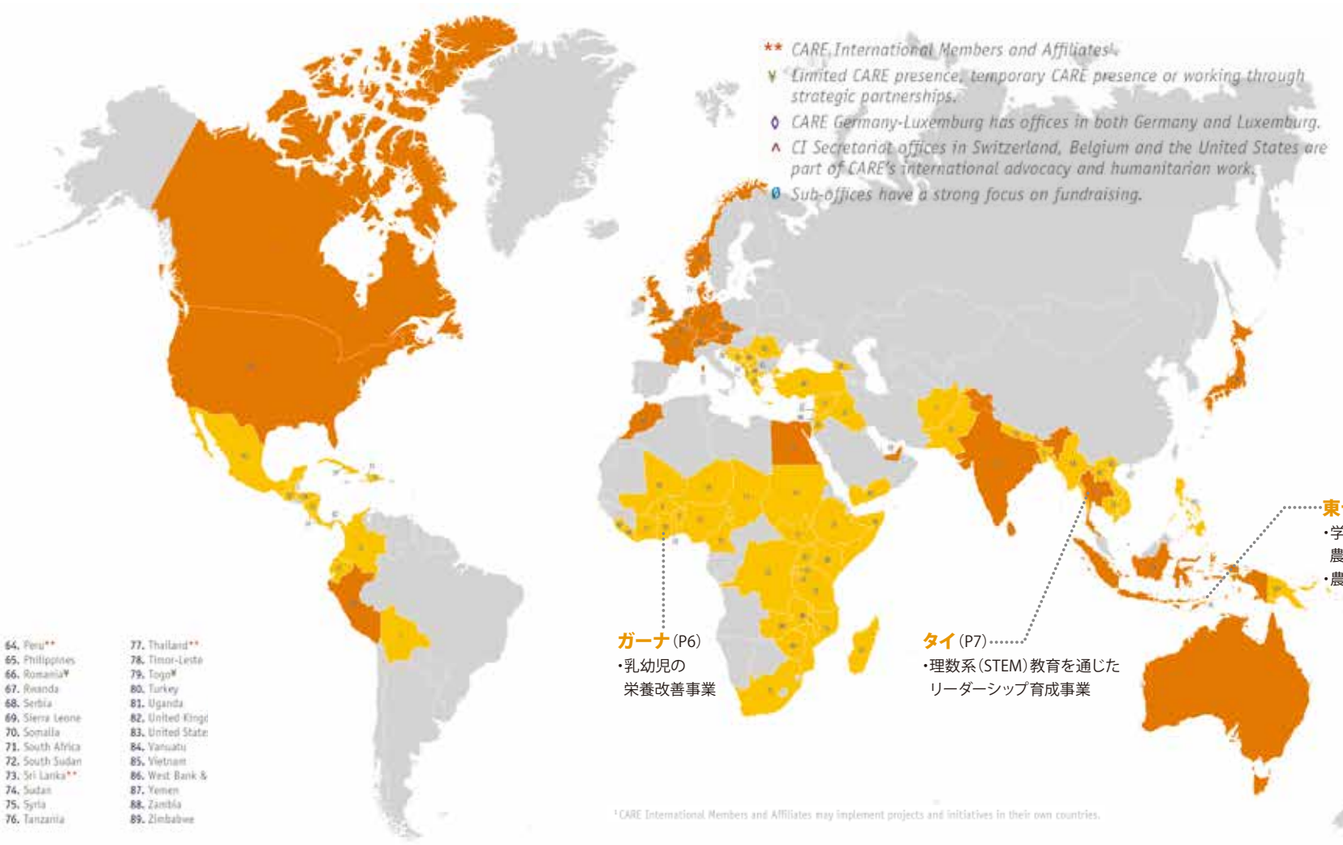
いずれも長い期間における地道な活動が必要とされておりますが、多岐にわたる支援を必要とする世界の人々のため、CAREは誇りをもって活動を続けて参ります。今後とも皆さまのご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2019年度事業報告

開発支援事業

継続事業	**東ティモール** 学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業	P4
終了事業	**東ティモール** 農村地域の生計向上事業	P5
終了事業	**ガーナ** 乳幼児の栄養改善事業	P6
継続事業	**タイ** 理数系（STEM）教育を通じたリーダーシップ育成事業	P7

A WORLD OF CARE



Care International Country Presence for FY18

1. Afghanistan
2. Albania¥
3. Australia**
4. Austria**
5. Bangladesh
6. Benin
7. Bolivia
8. Bosnia and Herzegovina
9. Burkina Faso¥
10. Burundi
11. Cambodia
12. Cameroon
13. Canada**
14. Chad
15. Colombia¥
16. Costa Rica¥
17. Côte d'Ivoire
18. Croatia¥
19. Cuba
20. Democratic Republic of the Congo
21. Denmark**
22. Dominican Republic¥
23. Ecuador
24. Egypt**
25. Ethiopia
26. Fiji¥
27. France**
28. Georgia
29. Germany**◊
30. Ghana
31. Greece¥
32. Guatemala
33. Haiti
34. Honduras
35. India**
36. Indonesia**
37. Iraq
38. Japan**
39. Jordan
40. Kenya
41. Kosovo
42. Laos
43. Lebanon
44. Liberia¥
45. Luxembourg**◊
46. Macedonia¥
47. Madagascar
48. Malawi
49. Mali
50. Mexico¥
51. Montenegro¥
52. Morocco**
53. Mozambique
54. Myanmar
55. Nepal
56. Netherlands**
57. Nicaragua
58. Niger
59. Nigeria¥
60. Norway**
61. Pakistan
62. Panama¥
63. Papua New Guinea
64. Peru**
65. Philippines
66. Romania¥
67. Rwanda
68. Serbia
69. Sierra Leone
70. Somalia
71. South Africa
72. South Sudan
73. Sri Lanka**
74. Sudan
75. Syria
76. Tanzania
77. Thailand**
78. Timor-Leste
79. Togo¥
80. Turkey
81. Uganda
82. United Kingd
83. United State
84. Vanuatu
85. Vietnam
86. West Bank &
87. Yemen
88. Zambia
89. Zimbabwe

CARE International Secretariat:

90. Geneva, Switzerland^
91. Brussels, Belgium^
-- New York, United States^

Sub-offices:

-- Belgium θ (of CARE France)
92. Czech Republic θ (of CARE Austria)
93. United Arab Emirates θ (of CARE USA)

Contents

02…ご挨拶と年度総括
03…A World of CARE（世界地図で見る事業地）
04…2019年度 事業報告
08…数字で見るCARE（ケア・インターナショナル）の1年
09…数字で見るケア・インターナショナル ジャパン 国内活動の1年
10…CARE支援組織 活動報告
11…CARE支援の輪
12…2019年度 会計報告
14…役員等
15…法人会員

継続事業 東ティモール

学習雑誌『ラファエック』を通じた農村地域の自立支援事業

— アジアで一番新しい国の農村部の人たちに生きるチカラを届ける —

活動地域：東ティモール全13県
事業期間：2014年6月～2022年6月（8年間）
事業規模：当年度支出額2,067千円（総事業予算：年間約1億円 *他ドナー資金を含む）
主な支援者：ニュージーランド政府、支援組織、個人

282,968部
年3回配布した
成人向け「ラファエック」の総数

1,296校
未就学・低学年向け
「ラファエック」を配布した学校数

491人
対話ワークショップ*に参加した人数

＊単に配布するだけでなく、配布した「ラファエック」の内容についての理解をより深めるために、地域住民を対象に参加型のワークショップを実施。本年は11県で開催しました。

©Josh Estey/CARE

課題

アジアで一番新しい国である東ティモールは、国民の約4割が1日1.25ドル以下で暮らすアジア最貧国の一つ。貧困層の85%は村部に暮らし、農村部と都市部の経済・教育格差が顕著となっています。教育言語であるポルトガル語の成人識字率は都市部で約40%である一方、農村部では約18%と圧倒的に低くなっています。農村部では十分な識字能力や計算能力を身に付けることができないため、経済活動や家計の管理に支障をきたし、親の識字能力の低さが子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響となって現れています。

活動内容

5年目にあたる本年は、成人向け、未就学・低学年向け、中学年向け、教員向けの4種を全13県で年3回配布。子ども向けと成人向けの内容を関連性付けることで、家庭でも情報共有できるよう工夫しました。これにより、子どもの識字能力や学習能力が強化されただけではなく、親の識字や計算能力も向上し、子どもが教育を受けることの重要性についての認識も高まりました。また、SNSを活用した教育コンテンツの配信にも注力し、公式Facebookは開設から1年足らずで、いいね！数が80,000人を突破しました。今後は、ウェブサイト上で電子版「ラファエック」の提供も行い、読者層の大幅な拡大を目指します。一方で課題は、雑誌版「ラファエック」の発行継続に向けた資金源の多様化です。寄付や助成金のみに依存せず、広告収入（スポンサー契約）の獲得に向けて、現地の国際機関や民間企業への働きかけも行っていきます。

受益者の声

ルイスさん 成人向け「ラファエック」を受け取る保護者

小学5年生の娘がいるルイスさん。5年生になると「ラファエック」の配布が終わるので、ルイスさんは娘と一緒に成人向けを読むようになり、親子の時間が増えました。ラファエックの記事で紹介された工作を親子でチャレンジ。工作は、安い材料や家にあるもので作れ、また収入につなげる方法も紹介されています。製作、販売、収入のサイクルを知ることによって、家庭の収入を増やすことができる可能性があります。「地域の人が、私が作った作品をいいといってくれました。周りの人に売れるようなものを作れるといいなと思います」と期待を寄せています。

終了事業 東ティモール

農村地域の生計向上事業

— 持続的で多様な生きる手段の構築と女性のエンパワメントを目指して —

ケア・インターナショナル ジャパンは、2030年に向けて世界が合意した SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて取り組んでいます。

活動地域：エルメラ県アッサベ郡の4村内22集落村
事業期間：2016年2月～2019年6月（3年間4ケ月）
事業規模：当年度支出額30,935千円（総事業予算：約90,000千円）
主な支援者：外務省、支援組織、ゴールドマン・サックス、個人

50%→98%
女性農民メンバーによる家庭外活動への参加に対する男性の理解度（対事業開始前比）

185%
穀物を主とする5つの標準作物*収穫量の達成度（対目標値）

2倍
事業開始前と終了時の農作物の収入が100ドル以上の農民グループの割合

＊とうもろこし、キャッサバ、さつまいも、ピーナッツ、ターメリック

課題

活動地のエルメラ県アッサベ郡は、貧困に苦しむ農村地域で、人々の暮らしはコーヒー生産とその収入に過度に依存しています。一方で、気候変動に伴う災害の多発により、その生産高は安定していません。このような脆弱な生活基盤に加え、農作業や家畜の世話、市場での農産物の売買等において、女性が重要な役割を担っているにもかかわらず、生活に関わる意思決定の場への女性の参加が十分に確保されていません。その結果、地域の貧困が助長されています。

活動内容

本年6月に活動を終了。この事業の目標は、1)農民の持続的で多様な生計手段の構築、2）女性のエンパワメント。1）については、気候変動による不作の事態への対策や技術研修により、とうもろこしやキャッサバなどの作物の収穫量が飛躍的に増加しました。さらに、野菜を販売することで新たな収入源の確保にもつながり、大きな成果を収めました。2)については、ジェンダー研修などを通じ、女性の家庭外での活動についての男性の意識が大きく変化するとともに、女性は農業技術に加え、自信と積極性を身につけ、農業活動だけではなく世帯の食糧状況の改善にも貢献しました。今後、更なる生計向上のためには、域外への販路拡大が必須です。しかし、そのためには道路の改善が求められることから、現地の東ティモール事務所が国際労働機関（ILO）と協力し、道路条件の改善にも努めていきます。当財団は、対象農民グループのうち、12の農民グループに対し、農業用水のインフラを整備し、水へのアクセスを向上させ、農業活動を活性化させる事業を計画しています。

受益者の声

アグステーニャさん 農民グループのリーダー

アグステーニャさんは、「私たちが住む村では、家事を分担する習慣や知識がないので、多くの女性が家に残って家事に専念していました」とアッサベ地域の状況を教えてくれました。しかし、ジェンダー平等や女性のリーダーシップ研修を通じ、村人たちの考え方や行動にも変化が起き、アグステーニャさんの家庭でも夫婦で家事を分担するようになったといいます。また、農民グループの他の女性メンバーも、外で行われる会議などに出席できるようになりました。そして、「研修を受けて自分のリーダーとしての能力が上がり、メンバーたちが私を信じて活動してくれることで、更なる自信を持って活動できるようになりました。このような変化は、私たちだけではなく、東ティモール全体にとっても大きな変化を起こしてくれていると信じています」と語ってくれました。

終了事業 **ガーナ**

乳幼児の栄養改善事業

― 赤ちゃんの栄養改善を目指して、貧困層の女性たちが起業家として活躍 ―

活動地域：北部州イースト・マンプルーシー郡
事業期間：2016年2月～2019年2月（3年間）
事業規模：当年度支出額30,693千円（総事業予算：約140,000千円）
主な支援者：外務省、公益財団法人味の素ファンデーション

138人 村内貯蓄貸付組合*から選出された女性起業家の数

12,434回 栄養に関する教育セッションの実施回数

11,498人 調理実演に参加した保護者の延べ人数

*20～25人の女性からなる組織で、各人が少額の現金を預けグループで管理する仕組み。女性たちは、グループで管理する資金から融資を受けることにより、農作物の加工・販売、塩などの小分け販売等、各々のビジネスを起業することが可能になります。自分たちの村や近隣の村の住民がビジネスの顧客となります。

課題 北部州イースト・マンプルーシー郡は、経済成長が著しいガーナにおいては、極度の貧困状態が残る地域です。ガーナの貧困層のおよそ40%の人々が北部で暮らし、とりわけ、北部州の5歳以下の子どもの栄養状態は悪く、33%が発育阻害（低身長）、20%が低体重、82%が貧血とされており、この地域の貧困と連動しているといわれています。子どもの栄養状態の改善は、将来的な貧困の予防の点からも喫緊の課題となっています。

活動内容 本年2月に活動を終了。本事業の目標は、1）保護者の栄養知識の定着、2）栄養価を高める調理の実践、3）女性のエンパワメント。1)については、栄養啓発員の地道な伝播活動により、乳幼児の保護者らを含めた住民の97%に栄養知識の向上と定着が見られ、特に一般男性の意識の変化が確認されました。2）については、1）で得た知識をもとに、適切な調理法の浸透が見られ、「知識」が「行動」に追いつく結果となりました。3）については、栄養補助サプリメント「KOKO plus」の需要創出活動で女性が収入を得ることにより、家庭内で発言力が増した結果、収入を子どもの教育や食材の購入などに充てることが可能になり、生活の向上にもつながりました。残された課題としては、一般男性に反し、男性コミュニティ・リーダーの意識と行動変容には忍耐が必要であること、栄養補助サプリメント「KOKO plus」の定期摂取の定着化には至らなかったこと、そして、他の緊急栄養剤の無償配布による「KOKO plus」の販売減少があげられます。今後は、同地に残る味の素ファンデーションによるフォローアップ支援の中で対応していく予定です。

受益者の声

ジェームズさん ガーナ保健局所属の栄養啓発員
栄養啓発員で、村のリーダーでもあるジェームズさんは、初めて村内貯蓄貸付組合（VSLA）を聞いた時は戸惑ったといいます。しかし、VSLAから借りた資金で、畑を広げることができてから、VSLAを組織する運動の先頭に立ち、10の組合を作りました。「VSLAが広がり、最低でも家族の一人が組合員になる日が来ることを願っています。その日こそが、村に貧困がなくなる日です」とジェームズさんはいいます。「貧しいと健康は二の次になります。貧困を解決すれば誰だって健康でいたいと思うようになるのです」と熱く語ってくれました。

緊 急 支 援 事 業 ▶ 募 金 活 動 終 了

日本国内において、2017年12月に緊急募金を開始した「ミャンマー難民緊急支援事業」は、2019年6月をもって募金活動を終了しました。

本事業は、CAREバングラデシュが主体となって実施中です。本年は、主にシェルター、水と衛生、食糧と生活用品の配布、ジェンダーに基づく暴力からの保護の分野で活動を行いました。CAREは、難民らの安全な帰還が実現するよう2020年9月まで活動を継続していく予定です。

継続事業 **タイ**

理数系（STEM*）教育を通じたリーダーシップ育成事業

― 企業と連携して社会性と自律性の高い人材を育成する ―

活動地域：アユタヤ県、ラヨーン県およびサムットプラカーン県
事業期間：2017年4月～2020年3月（3年間）
事業規模：当年度支出額9,963千円（総事業規模30,000千円）
主な支援者：日産自動車株式会社

*「STEM（ステム）」とは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の頭文字をとった言葉。

426人 青少年を対象としたリーダーシップ研修に参加した生徒の数（うち女子生徒275人）

63グループ 校内で発足した小規模ビジネスのグループの数

37人 研修を受けた教員の数

課題 中所得国であるタイでは、特に都市部において、高校や大学など高等教育へ進む子どもたちが増え、学校内外での受験偏重教育が進んでいます。一方で、地方や農村部においては、最低限の学力を身に着けることのみが優先され、子どもたちは、社会や人との関わりの中で生きていく力やリーダーシップ、また職業的な技能を学習する機会に恵まれていません。タイ国内における貧富の格差が益々拡大する中、特に、貧困に苦しむ地域の子どもたち（特に女子）は、自らの可能性を十分に発揮できず、社会の中で取り残されています。

活動内容 2年次にあたる本年度は、1）青少年（特に女子）を対象とした研修とワークショップ、2）教員への研修、3）地域社会との連携強化を行いました。1）については、ユース・リーダーシップ・キャンプや小規模ビジネス起業に向けたマーケティング研修等を実施。実際に、食品、農産物、土産物など多岐にわたる商品が生まれ、販売されました。また、女子生徒の発言が増え、より科学技術に関心を持つ生徒が現れました。2)については、生徒中心で計画・実施・評価する指導方法の研修を通じて、教員が生徒の自主性を重んじるようになりました。3）については、新たに日産の工場があるサムットプラカーン県の2校が対象校として追加され、現地の日産社員や関係者の関与が促進されました。課題としては、担当教員の他校への異動の際、引き継ぎが十分になされなかったケースが散見されたことです。起業体験活動の持続性をより高めるためにも、後任への適切な引き継ぎが行えるようマニュアルの整備を急ぐとともに、教師間の連携強化を図っていきます。

受益者の声

サロチャさん
アユタヤ県の高校に通うサロチャさんは、ガラス・エッチング加工を施した商品を扱うビジネス起業体験活動やユース・リーダーシップ・キャンプに参加しました。「作った商品をネット販売するために、採算分析する理数系の勉強だけでなく、市場のニーズを把握して、商品を売り込むための動画編集の技術も学びました。また、キャンプでは、他の人の意見を聞き、チームで取り組む重要性も学び、このことは社会に出た時に絶対に役に立つと思っています」と生き生きと語ってくれました。

緊 急 支 援 事 業 ▶ 募 金 活 動 終 了

日本国内において、2018年10月に緊急募金を開始した「スラウェシ島地震被災者緊急支援事業」は、2019年6月をもって募金活動を終了しました。

本事業は、ケア・インターナショナル インドネシアが主体となって実施中です。本年は、主にシェルター支援、水と衛生、生業支援の分野で活動を行いました。CAREは、緊急・復興支援を通して、被災者の苦痛の軽減と人間としての尊厳の維持を目指し、2021年8月まで活動を継続していく予定です。

数字で見る ケア・インターナショナルの1年

81 支援国の数（国）

965 実施プロジェクトの数（事業）

55,844,562 直接受益者数（人）（うち74%は女性）

340,082,666 間接受益者数（人）（うち68%は女性）

直接受益者の数トップ10（数字は人数）

1	インド	23,892,384
2	バングラデシュ	7,774,836
3	ネパール	3,941,640
4	エチオピア	1,955,748
5	イエメン	1,664,845
6	ジンバブエ	1,500,386
7	ソマリア	1,467,946
8	ガーナ	1,367,053
9	マリ	1,157,122
10	スーダン	1,033,476

©Peter Caton/CARE

©Makmende Media

©Jorja Currington/CARE

事業別直接受益者の数（数字は人数）

人道支援 **9,891,820**

性と生殖の健康と権利 **30,172,638**

暴力のない暮らしの権利 **4,119,926**

食の安全保障と気候変動対策 **15,780,570**

女性の経済的エンパワメント **2,249,678**

数字で見る ケア・インターナショナル ジャパン国内活動の一年

新聞掲載およびテレビ放映等の合計報道実績件数 **25**件

Facebook のファン数 **3,629**人

個人定期支援者数 **261**人

イベント参加者数 / 回数 **1,555**人／**9**回

ボランティア登録者数 **445**人

CARE 支援組織の会員数 **576**人/社

当財団ホームページへのアクセスページ数 **245,962**ページビュー（PV）

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2019」参加者数 **519**人

企業による延べ寄付件数 **54**件

物品・サービス提供による支援の寄付相当額 **726,147**円

「あつめて国際協力」への支援総額（法人・団体・個人） **1,086,849**円

プロボノによる延べ協力件数 **41**件

個人による延べ寄付件数 **3,060**件

当財団の職員数（海外駐在員を含む） **11**人

インターン受入数 **8**人

CARE 支援組織 活動紹介

全国から届いたレポートを紹介します

ケア・サポーターズクラブ 大分

新たに「県北支部」が設立しました

2005年に発足したケア・サポーターズクラブ大分の会員が中心となり、新たに「県北支部」を設立。これを記念して2019年4月6日、中津文化会館にて、「野村萬斎狂言」公演会を開催しました。県内外から1,000人ものお客様をお迎えして、盛大に発足をお祝いしました。

「県北支部」設立記念公演（2019年4月6日）

ケア・フレンズ 岡山

落語会・ミニバザー（2018年11月7日）

秋晴れの一日、三遊亭楽生師匠による落語会とバザーを開催。230名の皆さまにご参加いただきました。落語の初題は「ジュゲム」、黒紋付に着替えての2題目は「芝浜」で、「ケア・フレンズ」の言葉をアドリブで入れられ、会場に大きな拍手がわきました。

ケア・フレンズ 東京

第21回講演会・バザー（2019年2月11日）

歌舞伎俳優の片岡愛之助氏をお迎えし、講演会を開催。上方の芸を受け継ぐお立場で、その端正な風貌から、二枚目で柔らかみのある役の和事、そして線の太い荒事にも魅力を発揮され大活躍の片岡氏。楽しいお話しと、拵え、「特別舞踊〜石橋〜」をご披露くださいました。

ケア・フレンズ 長野

チャリティ講演会とランチ（2019年6月19日）

文学評論家の堀井正子氏をお招きして、チャリティ講演会を開催。106名の皆さまにご参加いただきました。「折々の一茶」と題し、信州が生んだ俳人一茶の生涯をわかりやすくお話いただきました。この活動を通じて、ケア・インターナショナル ジャパンに、10万円を寄付しました。

ケア・サポーターズクラブ 熊本

春の親睦旅行（2019年3月26日）

会員同士の親睦を図るため、春の旅行を開催。26名が参加し、NHK大河ドラマ「いだてん」のミュージアムと福岡柳川の川下りを楽しみ、和やかな旅行となりました。旅の終わりには、会の財源確保のために、翌月から販売予定のレトルトカレーのサンプルを参加者に配布し、商品PRと販売の協力もお願いしました。

ケア・サポーターズクラブ 千葉

秋川雅史チャリティの夕べ（2019年2月20日）

歌手の秋川雅史氏をお迎えして、日本・ロシア協会千葉との共催でチャリティディナーを開催。250名が参加する盛大な会となりました。収益金は、千葉県肢体不自由児協会およびケア・サポーターズクラブ千葉で配分し、当会の使命の普及と会員拡大にとり、大変貴重な機会となりました。

ケア・サポーターズクラブ 佐賀

設立2周年記念講演会・バザー（2018年10月27日）

秋川雅史氏をお招きして、秋のチャリティ講演会とバザーを開催。カブトムシ飼育や仏像を彫るお話しなど、歌手活動以外の多彩な才能を知る機会を得て、楽しく有意義な時間となりました。また、「千の風になって」を含む4曲を歌っていただき、その素晴らしい歌声に300人を超える参加者の皆さまも感激ひとしおでした。

CARE支援の輪

様々な形で活動を支えて下さっている方々を紹介します

歩く国際協力「Walk in Her Shoes」

途上国の女性や女子が毎日水汲みなどのために歩く8,000歩を体験する「チャリティウォーク」。8年目を迎えた本年度は、「自分で企画して寄付を集める」という参加方法を推進し、沖縄、宮崎、兵庫、千葉の4地域で、計5団体による自主企画イベントが実施されました。また、リピーター参加者が、クラウドファンディングでの寄付集めにも挑戦してくださいました。

●ジュニア・アンバサダー*より

「疲れているからバスで帰りたい」と弱い自分に負けそうになった時もありました。しかし、今、この瞬間も水汲みをする女の子がいるという現実を考えたら、アンバサダーとしての意識をもって歩けました。1時間弱かけて歩いて帰る生徒は私だけでしたが、1人で歩く時間は忙しい日々の中でも大切な時間でした。

*毎年全国各地のガールスカウト所属の高校生およそ50名がジュニア・アンバサダーとして広報活動を行っています。

あつめて国際協力

使用済み切手や読まなくなった本などを集めて、換金し、国際協力活動につなげる取り組みを行っています。本年度も、事務局での物品の仕分け作業に多くのボランティアの皆さまにご協力いただきました。特に、夏休み期間中は、小中高生の若い世代のボランティアが活躍しました。企業単位でのご参加も増えています。

●Mipox株式会社 社員ボランティアの皆さま

「小学校の頃に、使い捨て切手やベルマーク等が集められていたのは、このような国際協力のためだったのだと、仕分け作業のボランティアを通じて知ることができました。またこの活動を通じて、CAREの支援事業についても知る良いきっかけとなりました」

「寄付する以外にも、日本から世界の貧困解決に力添えできるということを知りました。今後もこのような機会がありましたら参加していきたいです」

プロボノ*

6名の社会人プロボノ・メンバーが中心となり、国際女性デー記念イベント「だれもが自分らしく輝ける世界へ」を、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科と共催。アフリカの女の子の1日が体験できるすごろく制作やSNSを通じたフォトコンテスト等が実現しました。

*プロボノ（Pro bono）とは、各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動全般のこと。

●立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授　萩原なつ子様より

SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」は、他の目標と異なり、達成期限が設けられていません！その理由はひとつ、2030年まで待てないからです。今すぐに解決しなくてはならない課題だからです。すべての国で女性と女子が自分らしく、幸せに生きられるようになるために、CAREの活動を応援しています！

東京・神奈川勤務の20代から50代男女3名ずつが、8か月にわたりチームとして活動しました

クラウドファンディング「緊急支援基金」

今後起こり得る国内外の災害に備えるため、5月7日からおよそ2か月間、緊急支援基盤の強化に向けたクラウドファンディングに挑戦。140人もの皆さまから、あたたかい応援メッセージとともに、過去最大かつ目標額を上回る2,149,545円のご支援をいただきました。

●日本ファンドレイジング協会　代表理事　鵜尾雅隆様より

日本の戦後復興を支援してくれたCARE。CAREの女性などの災害弱者支援活動を応援しています。ミャンマー難民キャンプを訪れ、100万人を超える難民が人口過密で最貧国のバングラデシュにいるという大変な状況を見ました。そこでも女性や子どもが大きな負担を強いられていました。戦後の大変な時に、CAREを通じて世界の多くの善意が私たちを救ってくれたように、今の世界で苦難にある人たちに私たちが寄り添っていきましょう。

2019年度
会計報告

正味財産増減計算書（2018年7月1日～2019年6月30日）

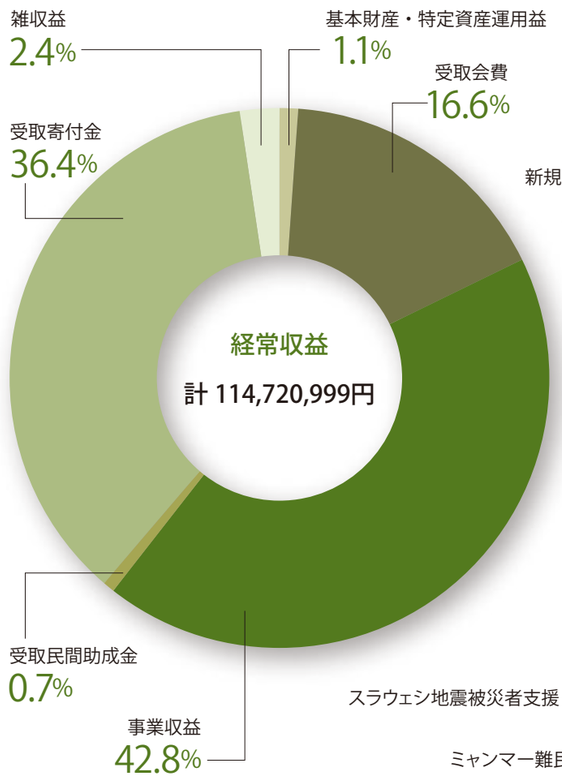
【単位：円】

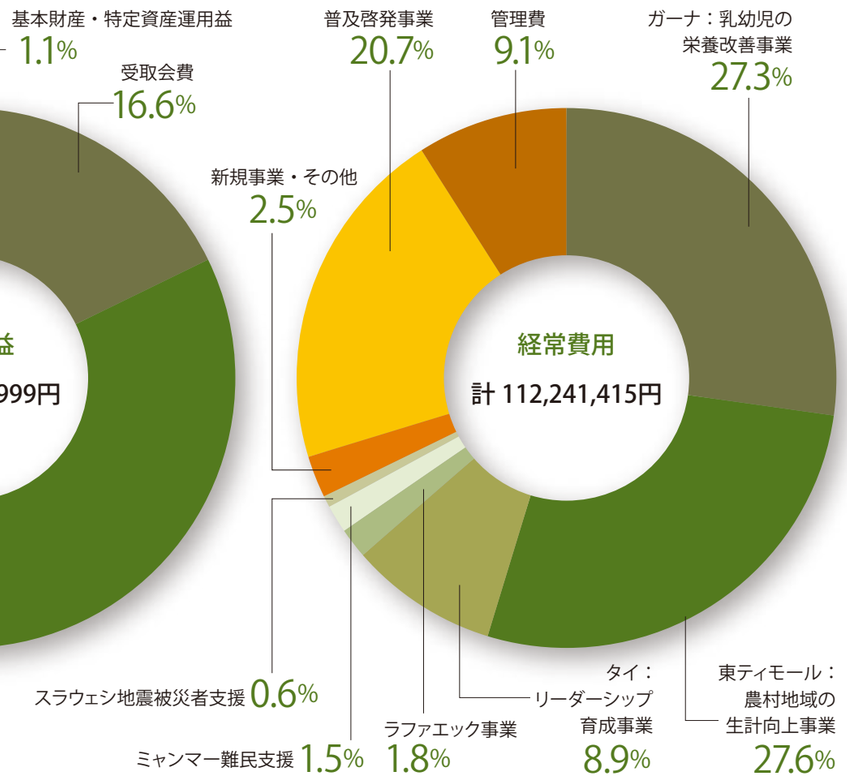
科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1.　経常収益			
基本財産・特定資産運用益	1,250,000	1,168,750	81,250
受取会費	19,006,000	19,063,600	△ 57,600
事業収益	49,098,921	54,669,740	△ 5,570,819
受取民間助成金	852,300	0	852,300
受取寄付金	41,813,354	47,168,919	△ 5,355,565
雑収益	2,700,424	3,993,962	△ 1,293,538
経常収益計	**114,720,999**	**126,064,971**	**△ 11,343,972**
2．経常費用			
国際協力事業費	78,788,101	92,489,578	△ 13,701,477
普及啓発事業費	23,232,795	20,035,722	3,197,073
管理費	10,220,519	12,023,631	△ 1,803,112
経常費用計	**112,241,415**	**124,548,931**	**△ 12,307,516**
評価損益			
基本財産・特定資産評価損益等	629,975	△ 1,379,650	2,009,625
投資有価証券評価損益等	△ 239,760	△ 42,930	△ 196,830
評価損益等計	390,215	△ 1,422,580	1,812,795
当期経常増減額	**2,869,799**	**93,460**	**2,776,339**
3．経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
4．経常外費用			
投資有価証券減損損失	0	60,750	△ 60,750
経常外費用計	0	60,750	△ 60,750
当期経常外増減額	0	△ 60,750	60,750
当期一般正味財産増減額	2,869,799	32,710	2,837,089
一般正味財産期首残高	42,787,876	42,755,166	32,710
一般正味財産期末残高	**45,657,675**	**42,787,876**	**2,869,799**
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取民間助成金	1,000,000	0	1,000,000
受取寄付金	25,935,174	47,590,121	△ 21,654,947
一般正味財産への振替額	△ 32,484,583	△ 38,819,820	6,335,237
当期指定正味財産増減額	△ 5,549,409	8,770,301	△ 14,319,710
指定正味財産期首残高	19,161,091	10,390,790	8,770,301
指定正味財産期末残高	**13,611,682**	**19,161,091**	**△ 5,549,409**
Ⅲ　正味財産期末残高	59,269,357	61,948,967	△ 2,679,610

貸借対照表（2019年6月30日現在）

【単位：円】

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	22,238,898	34,163,376	△ 11,924,478
前払事業費用	1,378,222	19,367,608	△ 17,989,386
未収金	1,683,146	11,585,412	△ 9,902,266
貯蔵品	394,799	380,454	14,345
前払費用・前払金・その他	509,510	758,244	△ 248,734
流動資産合計	26,204,575	66,255,094	△ 40,050,519
2. 固定資産			
基本財産	27,652,100	27,022,125	629,975
特定資産	13,611,682	19,161,091	△ 5,549,409
その他固定資産	5,850,429	6,449,910	△ 599,481
固定資産合計	47,114,211	52,633,126	△ 5,518,915
資産合計	**73,318,786**	**118,888,220**	**△ 45,569,434**
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
前受事業収益	2,971,366	28,683,954	△ 25,712,588
未払金	6,558,454	25,951,483	△ 19,393,029
前受会費	1,620,000	1,728,000	△ 108,000
預り金	491,359	575,816	△ 84,457
流動負債合計	11,641,179	56,939,253	△ 45,298,074
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,408,250	0	2,408,250
固定負債合計	2,408,250	0	2,408,250
負債合計	**14,049,429**	**56,939,253**	**△ 42,889,824**
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産	13,611,682	19,161,091	△ 5,549,409
2. 一般正味財産	45,657,675	42,787,876	2,869,799
正味財産合計	59,269,357	61,948,967	△ 2,679,610
負債及び正味財産合計	**73,318,786**	**118,888,220**	**△ 45,569,434**





監査報告書

謝 辞

日産自動車株式会社、ケア・フレンズ東京、カランマス・セジャトラ社、ケア・フレンズ岡山、ケア・サポーターズクラブ大分、ケア・フレンズ長野、ケア・サポーターズクラブ千葉、ケア・サポーターズクラブ佐賀、ケア・サポーターズクラブ熊本、高木邦格様他、たくさんの個人・法人の皆さまからのご支援に対しまして、心より感謝申し上げます。

役員等

（2019年6月30日現在）

名誉会長	柳井　俊二	国際海洋法裁判所 判事
顧問	稲川　素子	株式会社稲川素子事務所 代表
	小泉　淑子	弁護士 シティユーワ法律事務所
	山東　昭子	参議院議員、元科学技術庁長官、元参議院副議長
	日枝　久	株式会社フジテレビジョン 取締役相談役
代表理事（理事長）	目賀田　周一郎	中央大学法学部 教授、元メキシコ駐箚特命全権大使
代表理事（副理事長）	黒川　千万喜	元公益社団法人トヨタ財団 常務理事
理事	岩動　達	株式会社ペンタインターナショナル 代表取締役
	岩田　喜美枝	東京都監査委員
	上野　宏	株式会社村田製作所 取締役監査等委員、元大阪国税局長
	小島　明	公益社団法人日本経済研究センター 参与
	田中　由美子	城西国際大学 招聘教授、元JICA国際協力専門員（ジェンダーと開発）
監事	荒牧　知子	公認会計士・税理士 荒牧公認会計士事務所
	野々山　徹	元株式会社富士銀行 常務取締役
評議員	安倍　洋子	ケア・フレンズ東京 会長
	加藤　睦子	ケア・フレンズ岡山 名誉会長
	河野　洋子	カランマス・セジャトラ社 取締役
	近藤　茂夫	三菱重工業株式会社 総務法務部顧問
	今野　秀洋	一般財団法人貿易・産業協力振興財団 理事長
	篠沢　恭助	公益財団法人資本市場研究会 理事長、元大蔵事務次官
	紿田　英哉	アークヒルズクラブ 専務理事
	髙橋　衛	ドイツ証券株式会社 コンサルタント、株式会社パレスホテル 顧問
	田中　皓	公益財団法人助成財団センター 代表理事・専務理事
	平林　博	公益財団法人日印協会 代表理事・理事長、元駐インド及び駐フランス大使
	山本　卓弘	社会福祉法人野菊寮（御殿場コロニー） 理事
	渡邊　美佐	株式会社渡辺プロダクション 名誉会長

法人会員

アサヒグループホールディングス株式会社
カランマス・セジャトラ社
株式会社サラスバ
株式会社サラダコスモ
神社本廳
セガサミーホールディングス株式会社
全日本空輸株式会社
大成建設株式会社
東レ株式会社
日産自動車株式会社
日本製鉄株式会社
日本電信電話株式会社
株式会社日立製作所
株式会社ビデオエイペックス
株式会社フジテレビジョン
三井物産株式会社
三菱重工業株式会社
三菱商事株式会社
ミマスクリーンケア株式会社
山崎情報設計株式会社
株式会社ヤマノビューティメイトグループ
株式会社ロッテ
株式会社 渡辺プロダクション

（2019年6月30日現在）